



「いのちと人権が第一」を柱に 新しい年をきずこう



無差別平等の 地域包括ケアを貫いて

社会医療法人同仁会 理事長 齊藤 和則

あけましておめでとうございます。昨年5月、地域交流ゾーンが完成しました。さまざま催しで地元の方々



今年移転予定の同仁会本部屋上から、耳原総合病院を臨む

厚労省は高齢者の増える2025年に向け「地域包括ケア」の準備を進めています。住み慣れた土地で家族、お仲間と楽しく安心して暮らしていくことが目的です。国の基調は自助、互助すなわち個人責任と助け合いです。私たちは医療介護とともに地域包括ケアも無差別平等を貫き、政府は医療、社会保障、福祉充実の責任を果たせの声を上げながら共同組織

を進めます。友の会の会員さんたちは自発的、自主的、主体的に交流と健康増進活動を行っています。総合病院では職員が禁煙、階段使用などの健康増進に取り組んでいます。さらに社会格差、ストレス、貧困といった「健康の社会的決定要因(SDH)」の学習を制度教育としてみみはら全職員が始めました。共同組織と職員このような活動はヘルスプロモーション(HPH、健康づくり)としての実践の一つです。全事業所の機能と役割を連携強化とともに地域包括ケア時代の後継者育成にも力を

入れてきます。2012年以後政府はアフリカの南スーダンへ自衛隊を派遣し、昨年から兵器使用を可能としました。ある元自衛官は現地で負傷しても応急手当の道具も技術も不十分で隊員の命が軽視されていると言っています。憲法の「命と人権が第一」をもとに民医連綱領は一切の戦争政策に反対を謳っています。私たちみみはらの職員一同日本国憲法の学習を今期あらためて行い、戦争はしない、9条を守るの声を広めます。今年もよろしくお祈りします。

地域ごとの事業連携を さらに強めよう

社会医療法人同仁会 専務理事 穴井 勉

あけましておめでとうございます。パートナーとして力を合わせてきた健康友の会みみはらの会員のみなさん、昨年の奮闘に心から感謝します。

であり、高齢者を支える医療と介護のシステムやサービス量が充分でないことです。読売新聞の調査で、高齢者介護をめぐる殺人や心中などの事件が2013年以降、全国で少なくとも179件発生し、189人が死亡していた事が明らかとなりました。安倍政権の「自己責任による社会保障路線」は、困難を抱える人たちの「命さえ排除」する社会

を生き出そうとしています。私たちは、権利としての社会保障を掲げ、総がかりで前進させるとともに、私たちの地元で人権を守る実践を積み重ねていきます。医療・介護・協同を一体で提供できる私たちの強みを地域ごとに展開していきましょう。堺市北区、堺区、西区、南区、高石市の各行政区エリアごとにグループとしての事業連携を強めます。介護事業の規模拡大と新規事業について、グループとして検討します。2014年度年間50回の出勤回数で始まったNPOともつづのワンコイン助っ人隊は、2015年度555回、2016年度4月〜10月の7カ月間で571回と急速な広がりをつくりだし、行政区ごとの取り組みへの移行が議論されています。友の会での議論と取り組

みが先行しています。安全・安心の急性期医療を担う耳原総合病院では、患者さんの不安にこたえる取り組みを強め、2016年度は前年比3倍のペースで無料低額診療が適用されています。地域医療をすすめる耳原高石診療所は、「障がい者認定のための書類を快く書いてくれる」という口コミで遠方から患者さんが足を運ばれます。看取りにも対応する老健では、ご家族とともに静かに最後の時を迎える援助が行われています。2017年は、大阪民医連南ブロック4つの生協法人が合併し新たに誕生した大阪みなみ医療福祉生協とのつながりも強め、各事業所や各支部の実践を交流し、励まして前足を築く年としましょう。

